



育てたい生徒像に関するワークショップ

令和8年6月24日

一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム



地域・教育魅力化
プラットフォーム
Platform for Sustainable Education and Community

本日の流れ

- オリエンテーション
- グループワーク①(育てたい生徒像について理想を考える)
- グループワーク②(理想を実現させるために自分たちが出来ることを考える)
- まとめ・今後の流れについて

●地域みらい留学事業

都道府県の枠を越えて、生徒が全国各地の魅力ある公立高校に進学できる仕組み。高校進学の実選択肢を広げ、子どもたちに様々な学びの環境を提供し、それと同時に過疎地域の少子高齢化、人口減少問題の解決を目的としている。

2025年度には、1,000名以上が入学。受け入れ校は36道県170校以上へ拡大するなど展開を広げている。



●都道府県伴走事業

都道府県教育委員会へ伴走支援し、各県立高校の現状把握・目標設定・コーディネーターの育成・指定高校の魅力化等を一貫して支援

2025年度までに、島根県・群馬県・高知県・佐賀県・長崎県・岩手県・広島県・岡山県・熊本県・宮崎県の10県にて実施。



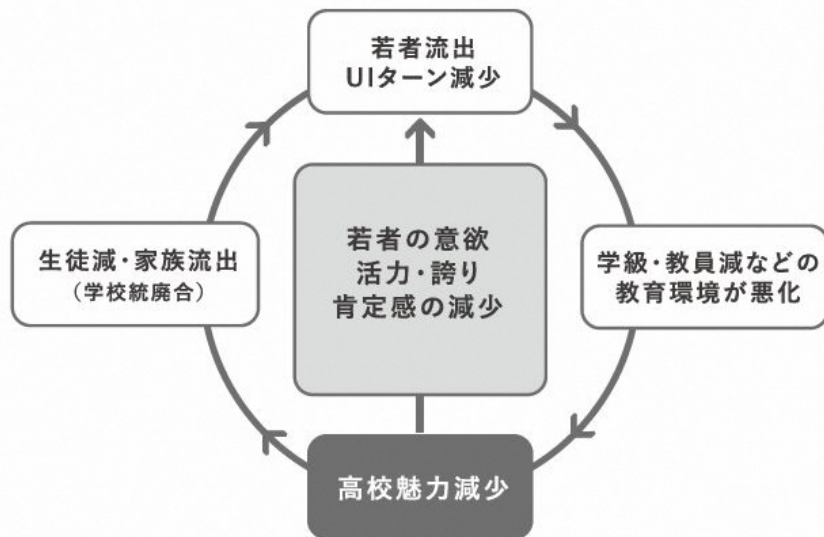
●みらいハイスクール事業

「部活や授業の実選択肢が少ない」、「他の地域やいろいろな生き方、仕事を知りたい」といった小規模高校の生徒の声を受けて事業がスタート。2024年度は、生徒が地域や高校を越えて交流しあ、オンラインも活用しながら企業や大学、社会人とも関わることができる環境に向けて実証を重ねる。国内単年留学や短期越境を通して留学生だけでなく多くの地元生や地域、大人が刺激を与え合う自由越境圏を目指す。

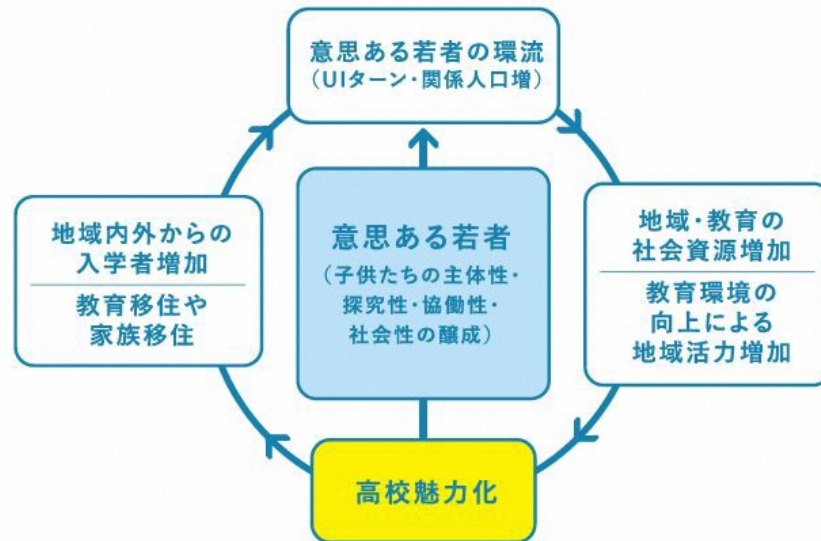


- 人口減少が本格化する中、持続可能な地域創生を実行するためには、地方に広がる悪循環を、新たな人づくり・人材の流れづくりを通じて好循環に転換する必要
- 特に地域からの人材出口となっている「高校の魅力化」が重要に

地方に広がる悪循環



高校魅力化を起点とした人づくりの好循環





人口：2300人

島の交通：

本土から約60kmをフェリーで約2～3時間

冬場は季節風が強く吹き荒れ、
船が欠航して孤島化することも珍しくない

空港なし、コンビニなし、信号一基

スローガンは
『ないものはない！』



ポイント①

高校と地域（地元自治体、同窓会、地元小中学校、民間団体等）
との協働体制の構築



ポイント②

データを基に生徒や関係者との対話を通した
学校・地域が WIN-WINとなるグランドデザインづくり

ポイント③

地域留学による異質性・多様性の受け入れ



【地元生の進学率向上】

2007年は45%だった地元進学率が
2015年には **89%** に回復

ポイント④

外部(地域)資源を活かした魅力あるカリキュラム 学びの環境の構築

概 要

○同高校では、2022年度に地域共創科を設置。23年度から2年次に普通科と地域共創科を選択制に。地域共創科は週に1回「地域共創DAY」を設定し、1限から6限まで（6コマ分）、島前3町村内での地域活動に充てる。

隠岐島前高、20人中15人が難関大などへ 地域共創科1期生 地域探究、総合型入試で成果

島前3町村の住民と活動 自己実現力養う

山陰 2025/3/6 04:00



進路指導は面接、小論文を中心に人物評価を重視する総合型入試と学校推薦型入試に特化し、**1期生20人のうち15人が両入試で大学を決めた。国立大では筑波大や金沢大、私立大では慶応大や国際基督教大、上智大のほか、米国やカンボジアといった海外の大学へ進学する生徒もいた。**

進路指導を担当した三島健士朗教諭（34）は「地域活動を通じ、さまざまな経験をしたことで面接の強みができる。今回の進路は素晴らしい実績で、大学入学後の将来も楽しみだ」と探究活動が進路への糧になったと強調した。

出典：山陰中央新報「隠岐島前高、20人中15人が難関大などへ 地域共創科1期生 地域探究、総合型入試で成果島前3町村の住民と活動 自己実現力養う(2025/3/6)」

北海道礼文町

2023年に卒業した地域みらい留学1期生8名のうち、

4名が町内に就職(町役場 / 郵便局 / 商工会 / 消防署)

同校には2025年現在、21名の県外生徒が在籍。

山形県遊佐町

1期生5名のうち、2名が遊佐町に残りたいということで、**高校卒**

業後のも近隣の県内大学に進学し、遊佐町に定住。同校には

2025年現在、17名の県外生徒が在籍。

<礼文 礼文高「最北島」の留学生>下 「1期生」半数残って就職

会員限定記事

2023年11月10日 9:59

あとで読む



2020年度から生徒の全国募集を始めた宗谷管内礼文町の礼文高から今春、「留学1期生」にあたる島外出身者8人が卒業し、このうち4人が島内で就職した。千葉県松戸市出身の黒田鈴百(すもも)さん(18)は礼文町町民課で業務に励む。「島に来て前向きな自分になった。その恩返しがしたい」と島に残ることにした。

この地に残り 貢献したい

県内進学を決めた遊佐高3年の小川さん(左)と安藤さん(右)



「地域みらい留学」事業を活用し、遊佐町の遊佐高に通う県外出身の3年生1人(右)の2人が今年3月に卒業後、進学先として県の大学を選んだ。5人は事業を通じて県内への留学生として初の卒業生で、他の3人は県外で進学する。

県内進学の2人は、とまちつくりを志す。ともに名品産地出身の安藤さん(左)は、安藤さんは遊佐さん(18)と川崎さん(18)で、遊佐さんは遊佐さん(18)で、遊佐町の東高で3年間、この地北公益科大に進む。高城に就いて貢献したいと校で地域と連携し、城のつづき、小川さんは「地組」を行い、魅力発信や、町の人の関わり、将来、

町の留学支援制度 1期生5人、今春卒業

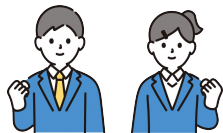
一緒に働きたいと、それぞれ県内進学の理由を語った。地域みらい留学は、島根県の一財団法人「地域・教育魅力化プラットフォーム」が運営する。都道府県の枠を超えて全国各地の公立高校に進学する取り組みを支援している。地域の高校の維持や、若者の人口創出などを目的としている。町は減少傾向にある町内唯一の県立高校・遊佐高の生徒確保のため、2019年度に事業を活用した町民体協留学支援制度を創設した。留学生側は学費や食費を負担し、町は3年間の住居提供や年3回の帰省費などを支援する。同制度は受け入れ先を遊佐高とし、3年生5人は1期生として20年度に入学した。2年生4人、1年生1人を含め、東京、千葉などの都県から計14人が在籍し、全校生徒10人の約2割を占める。来年度も県外の10人程度が志願している。同校は県立、5人の卒業生を輩出。県内では同校のほか、小国高、新庄北高最上校も事業を活用している。(山崎元太)

概要

○令和7年度より、津和野高等学校では従来の普通科を改編し、新たに『**未来共創科**』を設置。この新設科では、「教科学習」「探究学習」「情報活用」「特別活動等」の4つをカリキュラムの柱として新しい普通科の先進的な学びを提供。



	R4	R5	R6	R7
普通科	54	73	45	-
未来共創科	-	-	-	80



魅力の言語化を通じて、生徒や地域から選ばれる学校へ。



生徒が行きたい学校

- 地域の子どもが学校の魅力を理解し、**進学したい**と考えている。
- 魅力が県外の生徒にも分かりやすく伝わっている。

保護者が行かせたい学校

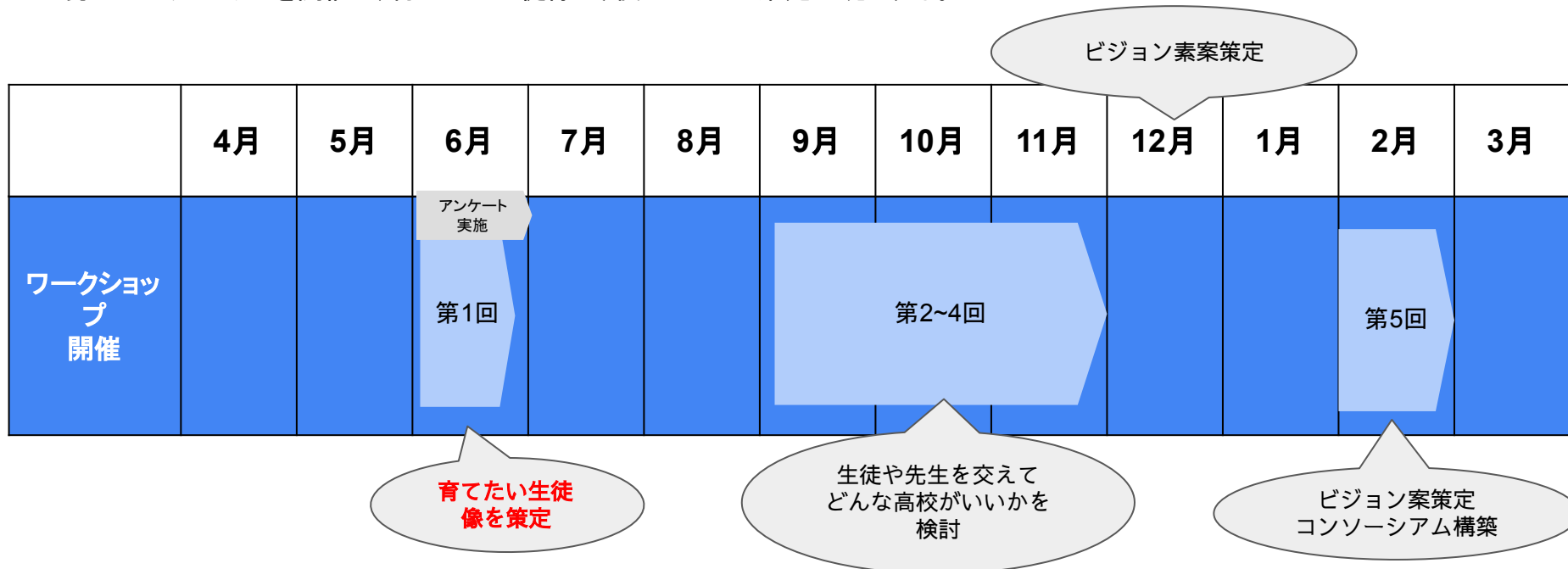
- 保護者が学校の魅力を理解し、**進学させたい**と考えている。

地域が活かしたい学校

- 学校の所在地域や自治体、地域住民が学校を**活用したい**と考えている。

内 容

現地ワークショップを開催し、育てたい生徒像・今後のビジョン策定の礎とする。

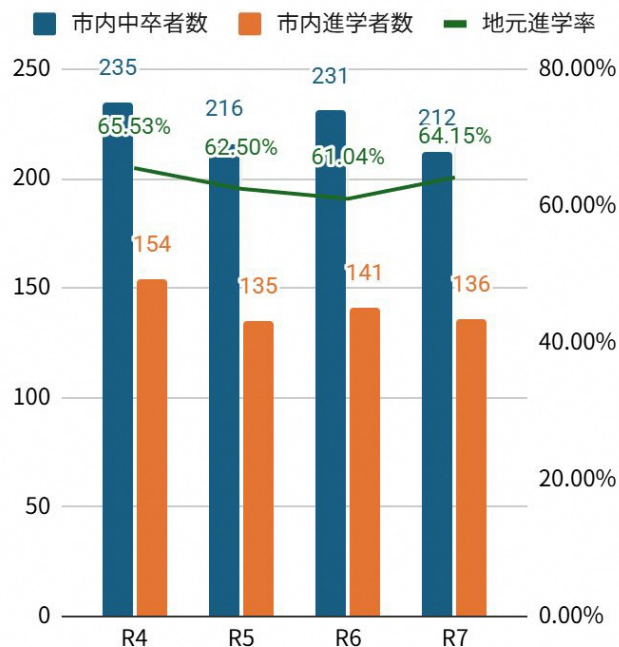


鹿角高校を取り巻く現状を理解し、
高校・地域間での相互理解が深まっている。

鹿角高校で育てたい・必要な生徒像 (人物像) を
考えることができ、各自の次の一歩が見えてる。

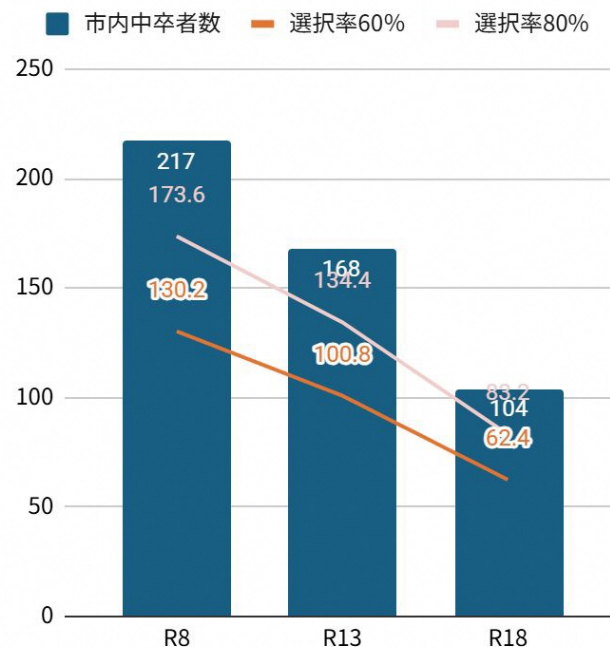
■鹿角市からの進学者数

- 過去4年平均**141.5人**／年
- 地元からの選択率は**63.3%**



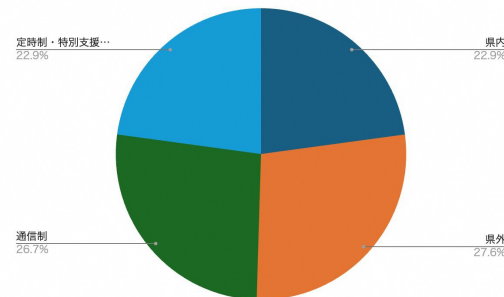
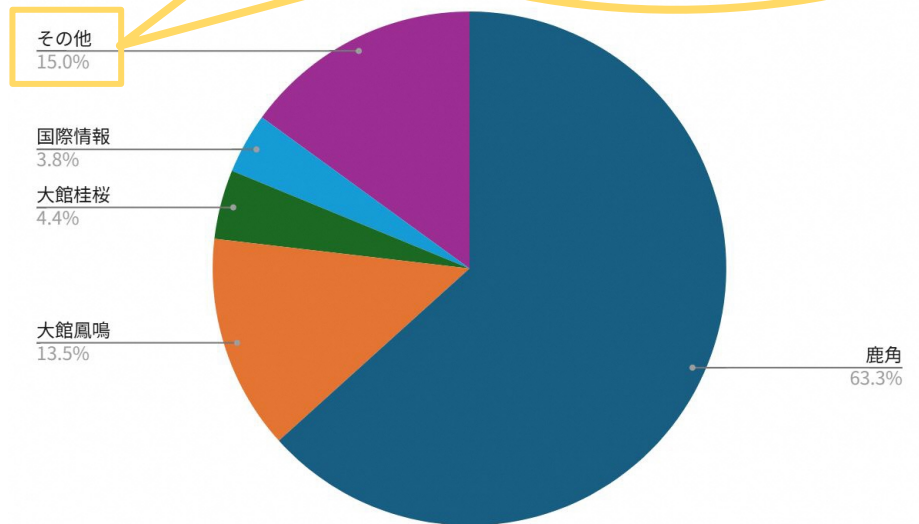
■鹿角市の年少人口の状況

- 中学卒業生は、R18までに**5割**の減少見込み
- 近年の選択率（60%）が続くと、10年後には62人程度となる見込み。



■鹿角市内中学校からの進路選択状況（過去4年）

- 鹿角市内中学校から鹿角高校の選択率は、**63.3%**。その他（私立など）15.0%。大館鳳鳴13.5%と大館市内の進路が続く（約2割が大館市内の高校へ進学）
- そのほかの進路選択のうち、県内・県外・通信制などそれぞれ4分の1程度が進学している。



4校の特徴比較③

学校名	基本理念・目標	特色・重点項目	求める生徒像	鹿角高の比較優位
鹿角高校	グローバルな視野、持続可能な地域社会への高い志	「探究」の深化。3コース制（人文・理数・未来）＋産業工学科の併設	多様な価値観を尊重し、社会課題に主体的に取り組む意欲	
大館鳳鳴	自主自立、他者共生、積極的な学習態度	伝統と文武両道。批判的思考力など7つの資質能力の育成	困難に打ち克つ精神力を持ち、新しい価値を創造する生徒	「進学×探究グローバル」による、偏差値のみに依らない価値提供。
大館桂桜	個人の能力最大化、実学、郷土発展への貢献	実学と地域貢献。工業専門学科を持つ総合的な構成	ものづくりや実社会への貢献に意欲的、目標が明確な生徒	「工業＋普通科」を同一校舎で学ぶ、真の学科横断型PBL（課題解決型学習）の実施。
大館国際情報	共生の精神、主体的に生きる人間の育成	国際化と高度情報化。6年一貫教育の利点を活かした教育	志を高く持ち、郷土の発展に寄与しようとする生徒	「現場実装力」：画面上の情報(IT)に対し、実社会を動かす工学的技能。

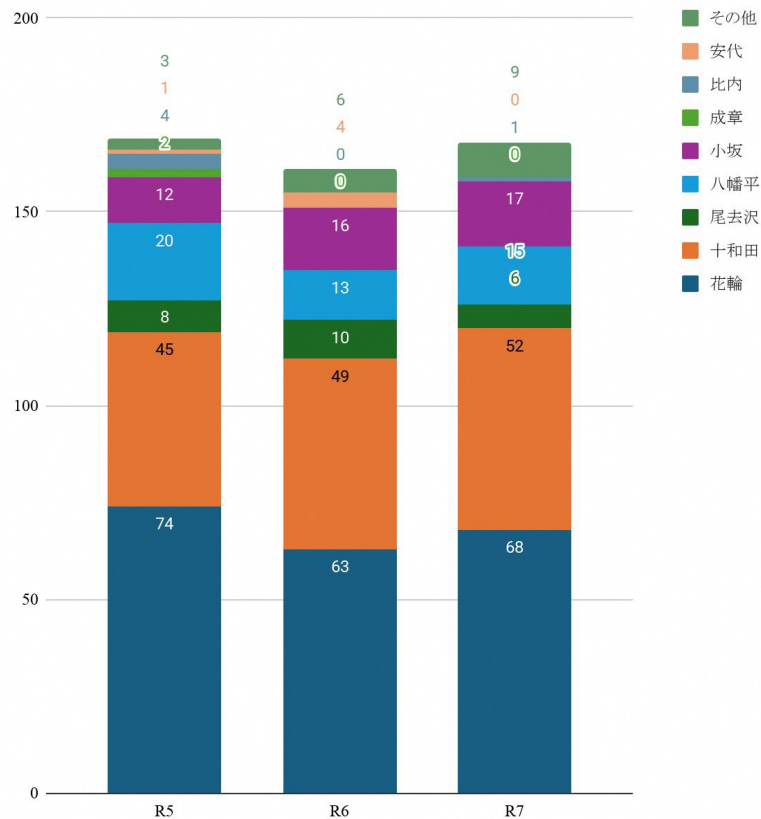
＋ 鹿角高校の強み

- 【独自性】「探究」に特化したコース設計：人文・理数・未来創造という明確な目的別コースが、総合型選抜等の多様な進路に直結。
- 【構成】普通科と産業工学科の共存：多様なキャリアパスを持つ生徒が混在し、校内で「社会の縮図」を体現。
- 【外部環境】地域唯一の拠点校：行政・地域住民の支援体制が厚く、PBL（プロジェクト学習）のフィールドが豊富。

－ 鹿角高校の課題

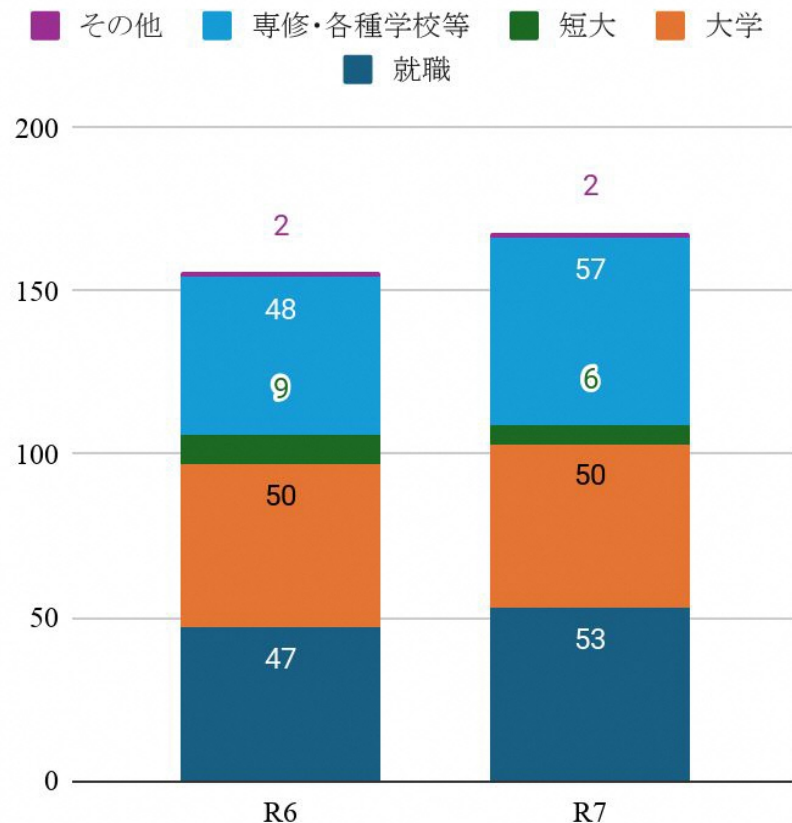
- 【ブランド】実績の蓄積フェーズ：新設校ゆえに大館鳳鳴（伝統校）や大館桂桜（実学）に比べた独自のブランドイメージが未定着。
- 【人口動態】人口減少の影響：地域全体の年少人口減が、将来的な学級規模維持の大きなリスク要因。

近隣地区からの入学者数



■鹿角高校の進路状況

1. 花輪中学校と十和田中学校の2校で、鹿角市内の進学者の大半、全体の約70.5%を占めている。
2. その他の市・地域からの進学者は全体の15.1%にあたる。
3. 大館市へ流出する高校生は約48.5人と多い一方、流入してくる高校生は約2.3人



■鹿角高校の進路状況

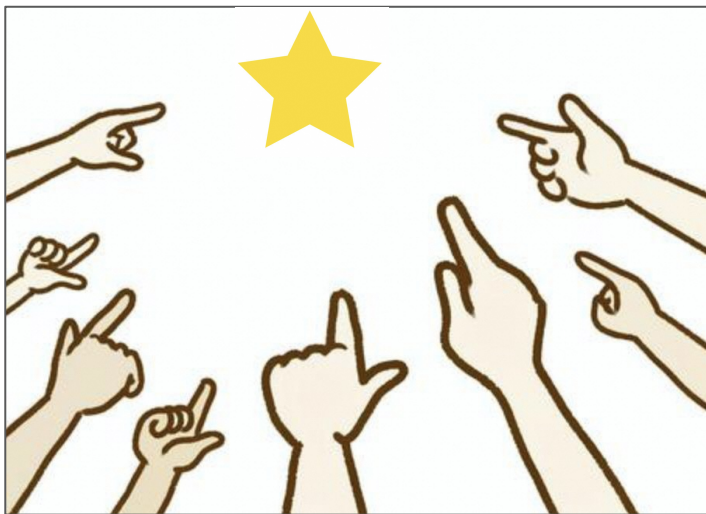
1. 大学進学:

- 国公立: 弘前大、岩手大、秋田大などの近隣大学への進学が中心。
- 私立: 秋田看護福祉大（看護）への進学者が多く、早稲田大や明治大などの難関校にも
- 専門学校等: 進学者の約3割を占め、理容・美容、医療、公務員系など多岐に渡る。

1. 就職状況

- 地元就職: 鹿角市内の事業所（かづの農協、ホテル鹿角、十和田オーディオ等）や、大館市（ニプロ大館工場）への就職が安定。浅利佐助商店や秋田銀行など、県内大手・優良企業。
- 公務員: 警察官や自衛官が中心。鹿角市職員（行政・消防）や秋田県職員（教育事務）にも。
- 県外就職: トヨタ自動車や日本郵便、関電工など、大手製造・インフラ企業への実績も。

厄介な問題を解くために必要なことは2つ



理想の共有



対話

今後の実施（検討）スケジュール

- ・ 高校のあり方を本質的に、地域とともに検討する必要があり、丁寧な討議を重視。
- ・ 概ね3年間で「目指す姿」への道筋をつけるスケジュール。
⇒全国生徒募集と並行しながら、令和10年度入学生（令和9年度中の生徒募集）からビジョンを本格実装・反映していく

